

## 令和6年度 東京都立永福学園学校経営計画

### I 目指す学校像

東京都立永福学園は、東京都の教育目標、本校の教育目標及び東京都特別支援教育推進計画(第二期)の「共生社会の実現に向け、障害のある幼児・児童・生徒の自立を目指し、一人一人の能力を最大限に伸ばして、社会参加・貢献できる人間を育成」という基本理念を具現化することを目指します。

「安心・協働・伸長」のある学校

- (1) 児童・生徒の心身の健康や安心・安全が守られるとともに、児童・生徒が主体的に学習活動等に参加でき、一人一人の資質・能力を伸ばさせることのできる学校
- (2) 全ての教職員が、自身の役割を果たすとともに、互いの専門性等を尊重し高め合い、協働することで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実践する学校
- (3) 保護者・都民・地域のニーズを的確に把握し、応えることにより、保護者・都民・地域から信頼されるとともに、強固な協力関係を築ける学校

### II 教育目標

- ・児童・生徒一人一人の人権を尊重し、障害の特性等に応じた専門的な教育を推進するとともに、健康で豊かな人間性や個性・社会性を育み、社会参加・自立し、社会に貢献できる人間を育成する。
- ・「誠心誠意」を校訓とし、社会参加・自立に必要な基本的な資質・能力を養い、地域社会の中で、生涯にわたって心豊かに生きていく人間を育成する。

### III 教育目標を達成するための基本方針

#### 1 一般事項（両部門共通の方針）

- ア 就業技術科と肢体不自由教育部門が併置されている学校の利点を生かし、各部門が緊密に連携することにより、全ての教員の専門性の向上を図り、学校全体の教育活動を充実させる。
- イ 全教員が人権に関する理解を深め、体罰根絶はもとより、教育活動全体を通して、高い人権意識に基づく指導を行う。
- ウ 児童・生徒が、安全で安心して学習に取り組めるために、校内及び学習環境の整備を徹底する。
- エ 「知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等」の育成を目指し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進するために、各授業におけるICT機器の積極的な活用や、特に高等部においては反転授業による家庭学習の充実を図る。
- オ 三観点（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）による学習評価の充実を図る。
- カ 「カリキュラム・マネジメント」の確立のため、普通教科・職業に関する専門教科の指導内容を相互横断的な視点で組み立て、教育活動全体の質の向上に努める。
- キ 「学校2020レガシー」として、社会貢献活動の充実を図るとともに、社会貢献活動を通して児童・生徒のボランティアマインドの醸成と自己肯定感の向上を図る。
- ク 児童・生徒が個々の実態に応じた表現や選択等ができるよう、教職員全体で意思決定支援に努め、児童・生徒の自己肯定感の向上を図る。
- ケ 校内リソース（図書館・EIFUKUギャラリー）を活用し、芸術教育の促進、図書活動の充実を図る。

るとともに、障害理解及び共生社会の具現化に資する肢体不自由教育部門と就業技術科及び大塚ろう学校永福分教室との交流の充実を図る。

- コ 就業技術科と肢体不自由教育部門及び大塚ろう学校永福分教室合同で実際の災害等を想定した避難訓練の充実を図る。
- サ 年間指導計画を作成するとともに、実態把握のもとに個々に応じた目標設定を行い、個別指導計画、学校生活支援シート（個別の教育支援計画）、キャリアパスポートを作成する。保護者との共通理解の上でそれらを活用し、集団及び個々の児童・生徒の特性に応じて、段階的・効果的な指導を行う。
- シ キャリア教育、人権教育、性教育、安全教育、学校安全計画、特別活動、道徳、自立活動、総合的な学習の時間や総合的な探究の時間の全体計画を作成し、それに基づいた年間指導計画を作成する。

## 2 キャリア発達及び意思決定支援の充実

東京都立永福学園では、教育目標を達成するために、肢体不自由教育部門及び高等部就業技術科において、キャリア教育を充実させ、児童・生徒一人一人のキャリア発達を促進する。

そのために、職業的キャリアだけでなく、家庭的キャリア、市民的キャリア、余暇的キャリアの視点で、教育活動を見直し、児童・生徒のキャリア発達を支援することにより、現在の生活や将来の生活を豊かにするために必要な力や主体的な態度を育成する。

## IV 中期目標と方策

### 1 特色ある教育活動の促進及び児童・生徒の学びの充実

- ア 全ての学習活動における「主体的、対話的で深い学び」の実践
- イ 両教育部門での研究活動等による各教科及び自立活動等の指導の充実
- ウ ICT 機器等を活用したオンライン学習等の多様な学びの促進
- エ 各教科や特別活動における消費者教育、主権者教育の充実

### 2 安全・安心な学習環境の整備及び地域と連携した防災対策等の強化

- ア 実際を想定した避難訓練や宿泊防災訓練等の実施と学校全体の防災意識及び対応力の向上
- イ 校舎内の定期的な安全点検による施設・設備の適切な維持・管理
- ウ 防災・防犯・校内事故等の未然防止に関する指導の充実

### 3 人権尊重の精神に基づく教育活動の推進

- ア いじめや体罰、不適切な指導等のない人権に配慮した教育の徹底と早期発見・早期対応・未然防止に関する組織的な取組の充実
- イ 教育活動全体を通じた道徳教育の推進
- ウ 児童・生徒の心情や生活年齢等に配慮するとともに、児童・生徒の人権を尊重した教育活動の徹底

### 4 地域に開かれた教育の展開及び特別支援教育に関する理解推進

- ア 地域関係機関(教育・福祉・労働・医療等)及び企業との連携促進
- イ 関係教育委員会と連携した副籍制度、交流及び共同学習の推進及び適切な就学相談等に関する支援の充実
- ウ 都立高等学校における発達障害教育等に関する支援の強化
- エ 様々なツールや機会を活用した保護者及び地域等への情報発信と内容の充実
- オ 社会貢献活動の充実による児童・生徒のボランティアマインドの醸成

### 5 学校における働き方改革の推進

- ア 業務の効率化や職場環境の整備等の促進
- イ 全教職員の健康管理の徹底
- ウ 教職員の年休取得及び在勤時間の把握による超過勤務状況の改善

## V 今年度の経営における重点テーマ

### 『チーム永福による「永福学園版 QSC の促進」』

肢体不自由教育部門と高等部就業技術科が併置されている特別支援学校の利点を生かし、「学校を一つの社会」と捉えるとともに、「永福学園版QSC」を全教職員が意識し、様々な教育活動等の充実、保護者・都民へのサービスの向上、清潔で安全な環境の維持徹底を図っていく。

#### 【永福学園版QSCとは・・・】

- Q : Quality 例 : 学習内容や指導方法等の質的な向上等を図る。  
 S : Service 例 : HP等により都民への広報の充実を図るとともに、保護者や地域から喜ばれ評価される教育活動を推進する。  
 C : Cleanliness 例 : 校内全体が常に整理・整頓・清潔・清掃が行き届き、児童・生徒、教職員、保護者等が安全で過ごしやすい環境の整備を進める。

## VI 今年度の取組目標と具体的方策

### 1 学習指導(自立活動を含む)

NO	部門	具体的な方策・取組目標 (成果指標)	
1	共通	方策	個別指導計画等に基づいた個に応じた適切な指導の実施
		目標	学校評価での保護者の学習指導に関する肯定的評価90%以上
2	共通	方策	GIGA スクール、スマートスクールによる ICT 機器を活用した指導の実施
		目標	学校評価での、ICT 機器を活用した指導に関する肯定的評価80%以上
3	肢体	方策	自立活動の目標及び具体的指導内容の適切な設定と保護者説明の実施
		目標	学校評価での保護者の自立活動に関する肯定的評価95%以上
4	就技	方策	反転学習の促進等による各教科等の指導の充実
		目標	生徒の授業評価における肯定的評価80%以上 家庭学習に関する肯定的評価70%以上
5	就技	方策	各教科等におけるSDGsに関する指導の充実
		目標	生徒の授業評価におけるSDGsに関する指導・成果の肯定的評価80%以上
6	就技	方策	職業に関する専門教科での確実な知識・技能等の習得及び職業及び社会人・職業人としての意識の向上
		目標	生徒授業評価における専門教科に関する肯定的評価95%以上

### 2 進路指導

NO	部門	具体的な方策・取組目標 (成果指標)	
1	共通	方策	進路学習、現場実習、進路相談を通じた全生徒の進路希望の実現
		目標	高等部第3学年生徒の進路希望の実現度100%
2	共通	方策	保護者に対する進路指導に関する学習会等の実施による情報提供の充実
		目標	学校評価での進路指導の情報提供に関する保護者の肯定的評価90%以上
3	共通	方策	ライフキャリアの視点でのキャリア教育の充実・推進
		目標	保護者の学校評価でのキャリア教育に関する肯定的評価85%以上
4	共通	方策	移行支援計画に基づく卒業生の追指導の実施
		目標	卒後1年目全進路先訪問、保護者等の求めに応じた支援会議の実施100%
5	就技	方策	生徒の希望する職種等での現場実習等の実施
		目標	希望達成率100%
6	就技	方策	進路学習及び現場実習を踏まえた(個別の)進路相談の計画的な実施
		目標	一人2回以上/年実施

### 3 生活指導

NO	部門	具体的な方策・取組目標（成果指標）	
1	共通	方策	アンケート等によるいじめの早期発見・対応の徹底と計画的な教員研修の実施
		目標	教員研修3回以上/年実施、いじめ早期発見・対応による解決率100%
2	共通	方策	高等部全HRでの「SOSの出し方に関する指導」の実施
		目標	2回/年高等部全HRで実施。生命にかかわる重大事故0件/年
3	共通	方策	防災教育推進会議の検討内容を踏まえた避難訓練等の計画的な実施
		目標	合同避難訓練11回以上/年実施及び合同宿泊防災訓練の実施
4	共通	方策	「SNS東京ルール」を踏まえた適切な活用のための指導の実施
		目標	SNSに関する事故及びトラブル0件/年、高等部全HRで1回/月指導
5	共通	方策	挨拶の励行と人権に配慮した呼称、言葉遣いの徹底及び教職員研修の実施
		目標	全児童・生徒・教職員、教職員研修及び自己診断等の実施（3回/年）
6	共通	方策	表彰制度を活用した児童・生徒の学習や活動意欲の向上及び規範意識の醸成の促進
		目標	表彰規定該当者 延200人以上/年

### 4 特別活動・その他

NO	部門	具体的な方策・取組目標（成果指標）	
1	共通	方策	学校行事（校外学習等）を各学習活動と関連させ計画的に実施
		目標	生徒・保護者による学校評価での学校行事に関する肯定的評価85%以上
2	共通	方策	社会貢献活動の計画的な実施によるボランティアマインドの醸成
		目標	両部門で、40回以上/年実施、地域等からの肯定的評価80%以上
3	共通	方策	文化・芸術等を通じた両部門間の校内交流の促進
		目標	HP等でのデジタル美術展の開催2回/年、校内美術館の定期的な展示替え（年3回以上）
4	共通	方策	図書コーナーを有効活用した読書活動の推進
		目標	年間貸出件数 1,500冊以上 保護者の学校評価における図書の整備等に関する肯定的な評価80%以上
5	就技	方策	各種委員会及び部活動に全生徒が参加による自発的・自主的活動の推進
		目標	生徒の学校生活（部活動等）に関する肯定的評価90%以上
6	就技	方策	キャリアガイダンスの時間の指導を要とした道德教育の実施
		目標	生徒授業評価等による自己肯定感・規範意識に関する肯定的評価85%以上

### 5 安全・安心、健康づくり

NO	部門	具体的な方策・取組目標（成果指標）	
1	共通	方策	学習及び学校介護場面における事故防止のための教員研修の実施
		目標	学校評価での安全・安心・健康に関する肯定的評価95%以上 研修会3回/年実施 人為的なミスによる事故0件
2	共通	方策	安全点検日を設けるなどして施設・設備等に関する安全管理の徹底
		目標	施設・設備の瑕疵等による学校事故0件
3	共通	方策	家庭等と連携し基本的な生活習慣の確立及び健康の三原則（栄養・運動・休養）に関する情報を提供することなどにより児童・生徒の体力向上等を促進
		目標	保健便り・給食便り・生活指導等の便りの1回程度/月発行
4	共通	方策	養護教諭、看護師等による健康観察及び医療的ケアの適切な実施
		目標	食物アレルギー及び医療的ケアに関する学校事故0件

5	肢体	方策	スクールバス、医療的ケア専用車両の安全かつ円滑な運行
		目標	スクールバス関係での事故件数0件 保護者の負担軽減に関する肯定的評価90%以上
6	就技	方策	生徒の心身の健康管理、事故及び体罰防止を徹底した部活動等の実施
		目標	生徒の学校評価等における部活動に関する満足度90%以上 部活動における指導等に関する研修 2回/年実施

## 6 広報、地域交流、地域支援等

NO	部門	具体的な方策・取組目標（成果指標）	
1	共通	方策	ホームページを有効活用した情報発信
		目標	学校評価における保護者のHPに関する肯定的評価90%以上
2	共通	方策	地域交流・学校間交流及び社会貢献活動等の地域と連携した教育の充実
		目標	地域交流・学校間交流、社会貢献活動の充実 両部門で40回以上/年実施
3	肢体	方策	副籍制度による交流及び共同学習等の実施
		目標	交流及び共同学習の希望者全員実施（100%）
4	就技	方策	高等学校の発達障害教育等に関する支援の強化
		目標	情報交換会 各校2回/年実施
5	就技	方策	関係教育委員会及び特別支援学校等と連携した募集活動の実施
		目標	応募倍率：1.2倍以上
6	就技	方策	各種説明会（学科説明会等）の充実と中学校及び保護者等への情報提供（個別相談等）の実施
		目標	入学者選考の個別相談件数 200件以上/年

## 7 学校運営・組織体制

NO	部門	具体的な方策・取組目標（成果指標）	
1	共通	方策	センター契約による効率的な予算の執行
		目標	一般需用費のセンター契約率60%以上
2	共通	方策	電子決済等によるペーパーレスの徹底
		目標	電子決済率 100%
3	共通	方策	定時退庁日、学校閉庁日の設定等による超過勤務時間の削減
		目標	全教職員の年間での平均超過勤務時間25時間以下/月
4	共通	方策	教職員の心身の健康の保持・促進
		目標	健康診断受診率100%及び要医療者の確実な医療機関の受診
5	共通	方策	全教職員の服務規範意識の向上
		目標	服務事故防止研修3回以上/年実施、服務事故0件
6	共通	方策	クリーンデスクと適切な個人情報管理の徹底の為の環境整備日の設定
		目標	クリーンデスクチェック1回/週、環境整備日1回/月 クリーンデスクに関する教員の肯定的評価90%以上 個人情報紛失等の事故0件